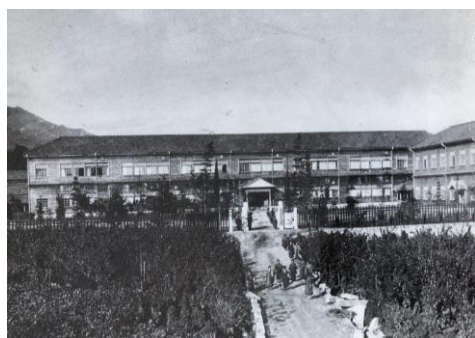


飯田風越高等学校創立記念日(4月25日) 校長講話



① 風越高校旧校地跡 記念碑
(現在の飯田創造館正面付近にあります)



② 畑の中にあった創立時の校舎



③ 旧校地・校舎(小伝馬町) S37 撮影



④ 移転当初の正門付近(昭和51年頃)
(創立80周年記念の門扉はまだない)

今朝は、朝学習の時間をもらって話をしたいと思います。

さっそくですが、今から124年前の1901年(明治34年)の4月25日を想像してみてください。

本校は二つの学校が統合してできた学校です。ひとつは、長野県立飯田高等女学校、もう一つは飯田市立(当時は飯田町でしたので「飯田町立」)飯田実科高等女学校です。

明治の後半、女子教育の必要が叫ばれ、下伊那地域の熱い思いとともに、飯田の地に高等女学校が創立され、その開校式が4月25日だったことから、今日のこの日が本校の創立記念日となっています。

なお、本校のもう一つのルーツである飯田実科高等女学校はその20年後の大正10年に創立されています。この学校は現在の追手町小学校のところに「飯田職業学校」としてつくられ、男子部と女子部がありました。男子部はその後飯田商業学校(後の飯田長姫高校)になっています。

話を戻して、飯田高等女学校のあった場所ですが、今の桜町駅から少し下ったところ、飯田創造館の前に公園がありますが、そこに校舎と校庭、そして、当時は交通が不便だったので、通学できない生徒のために寄宿舎が作られました。以来、昭和51年(1976年)に移転するまで、75年にわたって本校はずっとその小伝馬町にありました。当時は、学校にいても踏切の音が聞こえてから走れば、電車に間に合うという話もあったようです。(写真③) 現在、風越高校旧跡地として、公園内に記念碑があり、毎年同窓会の皆さんが秋に掃除をしてくださっています。(写真①)

初年度の生徒数は約90名。高等学校の学年に応じて1年から3年に編入され、各学年30名程度で、先生もわずか7人だったそうです。1年目は、校舎はまだ完成しておらず、近くのお寺の庫裏を借用してのスタートでした。創立の翌年に校舎が完成したそうです。(写真②)

当時在籍していた皆さんの先輩(第2回卒業の熊谷いつさん)の学校創立当初の思い出がありますので紹介します。

「初めて女学校の生徒募集のありましたのが、明治34年でしたが、ただ今とは違っていて当時はまだ女子教育につきまちは世間一般の関心が低くて、生徒集めには先生方はだいぶご苦労なすったように聞いております。

何しろその頃はバスだの電車だのという便利なものはありませんので、先生方の中にはワラジがけで遠い村々まで出かけて、父兄方の説得に努力なすった方もおありになったようでございます。そうしたご努力のおかげで90名ほどの希望者が集まりまして、試験のようなものはなくて全員入れて頂いたように思います。そして小学校修了の程度(当時の小学校は尋常科4年と高等科4年にわかれておりました)に応じてそれぞれ1年2年3年に組み入れられましたが、私ども高等科2年を終えて入りました30名ほどの者は2年生ということで一つのクラスにまとめられました。

そして濱校長先生(30歳半ばの新進気鋭のお方で父兄間の評判もたいへんよろしいようでした)、河野教頭先生以下10人ほどの先生方のご指導の下に専照寺の仮校舎で授業が始まりました。翌年本校舎が完成いたしましたのでその方で勉強いたしました。(写真②)

校舎といいましても、お寺の庫裏を板で間仕切りした、簡単な小さな教室が三つと職員室ぐらいのもので、体操場や特別教室などももちろんありませんので、読んだり書いたりするような学科がおもで、体育や音楽などできませんでした。授業をしておりますと、庫裏の2階の薄暗い隙間から小僧さん達が珍しそうに覗き見していたことがよくありましたが、何だかあまり気持ちの良いものではありませんでした。

(中略)

当時の服装について申しますと、長い袂(たもと)の着物に蝦茶(えびちゃ)の袴(はかま)を長めにはきまして、白足袋(たび)に下駄(げだ)ばき、髪型は銀杏返し(いちょうがえし)とか桃割(ももわれ)などの日本髪が大半で、束髪(そくはつ)の方も少しはあったように覚えております。そして学校道具は風呂敷に包んで抱えて通いました。これが創立当時の登校の姿でございますが今から思えば隔世の感がございます。」

(創立80周年記念誌 pp.20-21 より引用)